



KENYA

# 豊かな生き方とは何か？ ～世界に目を向け 広い視野を持ち 自分の生き方を考えていこう～

尾原 美香

島根県立松江工業高等学校

◆実践教科 Oral Communication

◆時間数 22時間

◆対象学年 3年 2クラス

◆対象人数 72人

## カリキュラム

### ■実践の目的

- ①世界にも目を向け、興味を持ち、広い視野で物事を考える姿勢を養う
- ②日本や自分自身のことを見つめ、自分の生き方について真剣に模索する姿勢を養う
- ③開発途上国やボランティアへの理解を深め、世界のために自分ができることを考える
- ④自分の将来と英語の密接な関係に気づき、英語学習の意欲を高める

### ここが素晴らしい！

盛りだくさんのアイデアと多岐に渡る活動で、年間を通して継続的に実践されている。竹とんぼとストラップを通して、双方が喜ぶ活動をし、世界を身近に感じさせた。英語教育と環境教育が合理的に融合している。

年間を通した英語授業のテーマに沿って、国際理解教育を取り入れていく。世界・途上国の様子を知り、日本・自分自身のことを見つめ、自分の生き方を考えてほしい。写真・映像・音楽なども使用し、心に残る授業を心がけたい。生徒がケニアを身近に感じることができるよう工夫したい。

### ■授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1・2時限目 [文化] ・世界の中の日本を見直す	・イングランド出身のALTから見た日本とイングランドについて書かれた10の文章を読み、それぞれどちらの国についてのことかを選ぶ ・普段当たり前になっている日本の文化を見直し、各自日本の好きなところを1つ英語で紹介・発表する	・ALTのカード ・日本文化紹介の英語の本・資料
3・4時限目 [環境問題] ・環境問題から途上国と先進国の問題を探る ・今、日本で自分のできることを考える	・絵本「地球の秘密」を読み、愛華さんが伝えたかったことを確認する ・割り箸を週に何本使っているか英語で聞きあい、クラス週平均使用本数を出し、自分の普段の行動で環境に悪いと思うことをリストアップする ・10枚の写真から環境問題について考え、英語でポスターを作る ・リオのスピーチを視聴し、地球を救うために今、自分のできることを考え、英語で作文する ・本「もったいない」を英語で読み、ケニアの森林問題について知る	・絵本「地球の秘密」(坪田愛華)(日本語版・英語版) ・写真10枚(酸性雨・森林伐採・オゾン層・空気汚染・海洋汚染・ごみ問題・大量漁業・貧困・密漁・干ばつ) ・リオのスピーチのビデオと本 ・本「もったいない」(ワンガリ・マータイ)

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
5～9時限目（内、1時間はHR活動） [ケニアとつながり] ・ケニアへの関心を高める ・地域の高齢者の方々と交流し、ものつくりを教わる ・高齢者や子どもに対しての思いやりの気持ちを育む ・自分の作ったもので、相手に喜んでもらう嬉しさを味わう	・貧困にテーマを絞りTV番組「あいのり」からケニアのスラムで生きる子どもたちの様子を紹介する ・クイズ形式でケニアの基本的知識を得る（場所・国旗・エイズ患者・子どもの死亡率など） ・ケニアの国や人々の生活を予想する ・地域のボランティア会の方々と講師に招いて、竹とんぼの作り方を教わる 上手く出来た竹とんぼには、ケニアの子どもへのプレゼントとして、デコレーションする ＊＊＊＊＊ケニアでの研修後＊＊＊＊＊ ・ケニアの様子を写真や映像を通して紹介する ・各自の予想と比較する ・竹とんぼを渡したときの様子のビデオを見る。 ・ケニアの子どもの様子を見て、なぜ生き生きしているのか考える	・TV番組「あいのり」ビデオ ・竹、道具（ボランティアの方々が準備してくださった）軍手、ポスカ ・ワークシート ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ ・ケニアの写真・ビデオ ・PC ・ケニアのSCCで購入したストラップ
10～14時限目 [人権] ・黒人人種差別について知る ・現在の世界で不公平を考え、開発途上国での人権問題を知る	・導入に、昔アフリカから人々が奴隷としてアメリカ・ヨーロッパに運ばれた事実を確認し、「Rosa Parks」の生き方を読む ・キング牧師「I have a dream」のスピーチを生声で聞き、自分がこれから生きていく世の中はどんな世界になってほしいか考え、I have a dream～に続く英文を作る ・アメリカ公民権運動勃発当時の人種差別を映画「The long way home」から読み取る ・「世界がもし36人の村だったら」（英語版）どうしたら世界が公平になるか考える ・ケニアの社会の教科書からケニアの人権問題について考える	・キング牧師スピーチCD ・映画「The long way home」 ・ワークシート ・本「世界がもし100人の村だったら」お茶・コップ・鉛・ひも・ワークシート ・ケニアの社会科の教科書
15・16時限目 [仕事・技術] ・仕事への姿勢・心構えを考える ・自分がどんな生き方を求めるのか考える	・技術者や企業のトップで活躍する人の考え方を英語で読み、どの人の考えに賛同するか考える ・「人生で成功するための10枚のカード」（英語訳）の内容を理解し、自分自身のランキングをつけ、友達と比較しあい人それぞれの意見があることを知る ・自分にとって人生に成功するための秘訣を考え、英語で表現する	・成功した人の言葉（英語） ・人生で成功するための10枚のカード（「わたし・出会い・発見」大阪府人権教育研究協議会編）
17～20時限目 [ボランティア] ・開発途上国でのボランティア活動について知る ・今高校生としてできることを考える ・高校卒業後、自分たちも世界で活躍できる場があることを知る	注）「地球のステージ1」鑑賞 全校生徒対象 ・国境なき医師団の山本医師についての英語の文を読み内容を理解し、真の国際協力について考える ・ロールプレイ～もし青年海外協力隊員になったら？グループで1つの国（開発途上国）で、1）各自自分の役の台本（英語）を読み、日本からのボランティア青年にしてもらいたい事を1つ考える 2）グループ毎にロールプレイし、聞き手は、誰の意見に賛同するか、自分ならその国で何をするか考える 3）青年海外協力隊についての情報を紹介する ・「風に立つライオン」の英語と日本語の歌から、生き方を考える	・国境なき医師団の山本医師ポスター ・ロールプレイ用台本とワークシート ・フォトランゲージキット（JICA） ・ケニアの写真（動物・自然・子ども達・ボランティア青年） ・青年海外協力隊HP ・風に立つライオンCD ・英語版CD ・風に立つライオン歌詞 ・ワークシート

注) 医師である桑山紀彦氏が自身の海外での医療活動の際に撮った映像と自ら奏でる音楽でつづったコンサートのこと

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
今後 [価値観・生き方] ・世界で活躍する日本の若者の考えを知り、豊かに生きるとは、自分の生き方を考える	・ケニアで活躍する、青年海外協力隊のインタビューを見ているいろいろな生き方を考える ・「はちどりのひとしづく」を英語で読み、自分にできる良いことを英語で表現する ・もうすぐ社会人になるが、自分が豊かだと思ふ暮らしは何か、自分がどのような生き方をしたいのか、どう社会と関わるべきかを考え、英語で表現する	・ケニアで撮った青年海外協力隊員のインタビュー ・本「はちどりのひとしづく」

## 授業の詳細

### 1・2 文化 時限目

#### ALTの目から見ると？

ALTが自国イングランドにいた時と日本に来てから感じたことを書いた10枚のカード（建物・食事・部活・地形・スポーツ）を、どちらの国でのことか予想し、日本とイングランドに振り分ける。土橋泰子氏の「<sup>注)</sup>レスカのカード」をヒントにさせていただいた。

\*英語を通して文化も学べて、今までの中でも面白い授業だったという感想もあった。

注) 多文化共生や人権尊重を考えるカードゲーム。

#### 自分の国の良いところ

ALTが自国イングランドについて好きなところを紹介する。生徒は各自、日本の好きなところを考えて英語で表現し、ALTに紹介・クラスで発表する。\*人前で発表するのはよい経験となった。

### 3・4 環境問題 時限目

#### 坪田愛華さんの作品「地球の秘密」

教科書に出てきた坪田愛華さんの絵本「地球の秘密」の日本語版と英語版を見て、愛華さんが伝えたかった環境について私たちができることを再確認する。\*坪田愛華さんは鳥根県出身ということもあり、興味深く聞いていた。

#### 環境に悪いこと毎日どれだけしている？

#### クラスの週平均「割り箸」使用本数は？

割り箸を1週間に何本使うか、クラスのみんなに聞きあう（英語）。クラスの週平均割り箸使用本数を出す。（環境にやさしいクラスか？）マイ箸を持参するなど自分ができ対処法があることを確認する。自分の日常生活で、環境に悪いなと思いつつもしていることをリストアップする

（英語）。

#### この写真のままだと地球は危ない！

10枚の環境問題（酸性雨・森林伐採・オゾン層・空気汚染・海洋汚染・ごみ問題・大量漁業・貧困・密漁・干ばつ）についての写真を見せ、それぞれの単語を英語で何と言うか確認する。

その写真を見て「もし〜し続けたら、…になる。だから〇〇」「If〜 Then ..., So〇〇」という英語の見出しを考え、写真付きポスターを作成する。英語で発表する。クラスで一番よいポスターを選ぶ。

#### リオのスピーチ

セバン鈴木さんのリオのスピーチをビデオで視聴する。自分が一番感動した文章に線を引き、友達と感想をシェアする。地球を救うために今日本で自分にできることを考え、環境問題の作文を作る（英語）。マータイさんの「もったいない」を英語で読む。

\*坪田愛華さんもセバン鈴木さんも当時は12歳であったということに感心する生徒や、27歳現在のセバンさんは今何をしているのかと興味を示す生徒もいた。ただし環境問題について日本語で考えることができても英語で作文にするのは困難だった。

### 5~9 ケニアとつながり 時限目

#### ケニアのスラムの子ども

テレビ番組「あいのり」のビデオを見て、ケニアのスラムで生きる子どもたちの様子を紹介する。先生はこの夏にケニアへ行き、ケニアの子どもたちに会ってくることを伝える。

#### ケニアの国ってどんなところだろう？

ケニアに関する英語クイズ（場所・国旗・エイズ問題など）をワークシートで考え基本的な知識を得る。

ケニアの予想をする。ケニアの町の様子、ケニ

アにはないだろうと思うもの、ケニアの子どもの生活、子どもの夢、子どもの欲しいもの、ケニアの子どもに聞きたいこと、チェックしてきて欲しいところをプリントに記入させる。

### 日本の伝統的な遊び道具「竹とんぼ」を作ってプレゼントしよう！

地域の「ボランティアの会」の方々を7名講師に招き、竹とんぼの作り方を教わり、一緒に作成する。上手にできた作品にはケニアの子どもたちへのプレゼントとしてデコレーションする。

\*竹とんぼ作りという工作そのものを楽しみにしている生徒もいた。とても暑い日だったが、「上手く出来たものはケニア行きで、失敗したら日本残留。今度はもっと良い物を作ろう！よし気合入れてつくるぞ！」などと、熱心に楽しそうに活動していた。地域の「ボランティアの会」の皆様から教わったことも、普段の学校生活ではなかなかない良い経験ができたと思う。ケニアの報告を楽しみにしている生徒もいた。

\*\*\*\*\*夏 ケニアでの研修後\*\*\*\*\*

### 竹とんぼ海をわたる～ケニアの子どもたちへ

広い大地・ビル・道路・日本車・道沿いの店・スーパー・スラム・小学校・動物たち・環境（町とダチョウ）・平日のケニアの人々 というポイントで、写真を見ながら話しを聞き、プリントの間を考える。

町の様子、スラムの様子、子どもたちについて、自分の予想と違って驚いたところや感想を書く。

小学校で竹とんぼを渡したときの子どもたちが喜ぶ映像を見る。給食の様子を映像で見る。子どもたちの様子を観察する。なぜ子どもが生き生きしているかを考えてみる。SCC（セーブ・ザ・チルドレン・センター）の久保田さんのインタビューを見せる。SCCの活動を紹介する。

竹とんぼのお礼として、SCCのストラップをおみやげに配る。映像で見た子どもたちのお母さんの手作りということを告げ、あの子どもたちとつながっていることを感じながら大事にしてほしいと伝える。\*おみやげのストラップは大好評で、それぞれ好きな動物の形を選んでいて。子どもたちの母親が作ったことを伝えると感慨深そうで、ケニア人の器用さにも感心していた。



竹とんぼを作っている授業風景



竹とんぼを喜ぶ写真

### 生徒の感想

- ・自分たちが作った竹とんぼがあんなにケニアの子達に喜んでもらえてとてもうれしかった。
- ・竹とんぼをすごく喜んでくれて素直に嬉しかった。
- ・子どもたちがめっちゃかわいい！
- ・作った甲斐があった。
- ・子どもたちが声をあげて喜んでいて、子どもはどこの国も同じだと思った。
- ・とてもはしゃいでいて、竹とんぼを奪い合っていた。
- ・子どもの目が生き生きしていた。
- ・竹とんぼを夢中で追いかける姿がかわいかった。
- ・こんなの見たらもうケニアに行くしかないね！
- ・ケニアの子どもは家族のつながりが強く、生活は厳しくても幸せなのだと思う。
- ・よく笑って表現が豊かだと思いました。
- ・みんなが仲良く一人一人が明るい。
- ・真剣に勉強していてとても明るいと思いました。
- ・やせているなあと思った。

- ・ケニアの子どもたちは心が裕福だ。
- ・下の子の面倒をちゃんと見ていてすごいと思った。
- ・助け合って生きているなあと思いました。とても笑顔がよかったです。
- ・1つ1つに興味を持っていて毎日が楽しそう。
- ・自分の想像と随分違って、こんなに都会だとは思わなかった。
- ・都会もあるのに、上下水道も整備されていないところもあり、格差が激しいと思った。
- ・島根と同じくらいの人口がこのスラムに住んでいるなんて大変だと思った。
- ・電気も水道も通ってないところにどうやって住むのか想像できない。自分が下水道を作ってあげたい。
- ・スーパーを見ても格差の大きさをを感じる。
- ・日本車は本当に世界に広まっているのだと感じた。
- ・平日でも何もしないで座っているなんて、仕事がないのも大変だ。
- ・自分もケニアに動物を見に行きたい。
- ・町のすぐそばに動物が住んでいて自然の大きさを感じた。
- ・発展していくのもいいが、動物達の住む場所が少なくなるのも問題だ。
- ・本当に同じ地球の現実だとは思えない。
- ・今日はケニアの子供たちのビデオを見てとても楽しかった。
- ・本当によかった。いろいろなことを知ることができた。
- ・新鮮だった。
- ・自分もいつか行ってみたい。
- ・まだ小さいのにいろいろと頑張っていて、僕達よりも精神的な面で大人なんじゃないかなと思いました。
- ・教育熱心だった。
- ・ケニアの子はたくましいと思った。自分も強く生きたい。
- ・食べ物を大事にしたいと思った。自分もつよくなりたと思った。
- ・ケニアの生活がよくわかりとてもいい授業だった。
- ・いろいろなケニアの細かいことがよくわかってよかった。
- ・それぞれ人間としての意味とか一日一

日を大切に下さいという言葉に感動しました。

## 10~14 人権 時限目

### “Rosa Parks”

導入に、昔アフリカから奴隷としてアメリカ・ヨーロッパに黒人が物のように運ばれた事実を確認する。アメリカの公民権運動勃発のきっかけとなった“Rosa Parks”の事件を英語で読む。

### “I have a dream”

キング牧師“I have a dream”のスピーチを生声で聞く。スピーチの中で自分の好きな一節を英語で暗唱する。自分がこれから生きていく世の中にはどんな世界になってほしいか考え、I have a dream that ~に続けて英語で表現する。\*キング牧師の生声を聞いたことでキング牧師の気持ちや迫力が伝わった。

### 映画から学ぶ

アメリカ公民権運動勃発当時の黒人問題を映画「The long way home」から読み取る。

映画の中で見られる自分がおかしいと思う差別の場面を抜き出す。最後の暴動シーンで、「Go back to Africa!」を聞き取らせる。映画に出てくる登場人物の立場になって考えて、「世間の流れに逆らえず差別をする人」「差別をすることに反対し、それを行動に移せる人」「差別に立ち向かう人」それぞれ自分だったらどう行動するだろうか考える。

\*黒人人種差別問題についての実態を見て、憤りをおぼえる生徒がほとんどであった。「ここまで差別がひどいとは思わなかった。」「どうしてあんなにあたりまえに悪いことが平然とできるのか理解できない。」「黒人はかっこいい。」「この映画を見てよかった。」「習ったことがそのまま映画の中に出てきていて当時の様子がよくわかってよかった。」「自分ならカープールに参加する。」などの感想があった。

### 世界がもし36人の村だったら（英語）

挨拶・人口密度・資金・水・識字・5歳未満の死亡率について、英語での指示に従い活動し、世界の不公平な現状について身をもって体感する。「世界がもし100人の村だったら」（英語と日本語）の詩を改めて読み、どうしたら平和に公平になるか考える。現在のアフリカの開発途上国（ケニア）

ではどのような人権問題があるのか、ケニアの社会の教科書を読み、ケニアの子どもの人権について知る。

\*本当にお茶や飴がもらえず、不公平を実感していた。日本の自分たちの暮らしが地球上でいかに裕福であるかを感じていた。どうしたら公平になるのかという問については、「裕福な国がもっと分け合う」という感想が多かったが、「問題が大きすぎて自分の力では難しい」などの感想もあった。

## 15~16 時限目 技術・仕事

企業のトップで活躍する人や技術者の言葉を英語で読み、どの人の考えに一番賛同するか考える。人生で成功するための10枚のカード（英語訳）を見て、意味を理解する。次に自分自身で人生に成功するために必要だと思う順からランキングをつける。友達と比較しあい、人それぞれの意見があることを知る。自分が考える人生に成功するための秘訣を“The secret of success lies in~”に続けて英語で表現する。

## 17~20 時限目 ボランティア

地球のステージ1 鑑賞  
(全校生徒対象：ボランティアに関するHR活動の時間)

### 生徒の感想

・本当にすばらしいステージでした。・自分も技術支援とかできればいいなと思った。・私も自分の夢があるのでがんばろうと思った。・世界を回っているいろいろな人を見て自分の想像している黒人、難民の実態を知りたいと思いました。・とても感動した。いや感動という言葉では簡単すぎるけど本当に心を動かされる講演だった。・人の暖かさや大きさがすごく伝わった。・このステージを聞けてすごくよかった。

### 国境なき医師団

国境なき医師団の山本医師についての英語の文を読み、真の国際協力について考える。現在、高校生としての自分ができることは何か考える。

### 生徒の感想

・人を助けるためには自分ももっと勉強しないとダメだと思った。・教育を受けることができるというのも幸せなことだと思いました。・俺も人のために何かをしてあげたい。・内戦はいろんな意味で怖いと思った。・感謝の気持ちは大切ですね。・ボランティアってやり方がひとつでないのだ。・てっきりその土地の人たちを助ければいだけと思っていたが、文化を理解することも大切だと知った。・技術提供の難しさを感じた。・どんなものでも自分らしさって大事だと思った。

### もし青年海外協力隊員になったら？（英語でロールプレイ）

- ①ケニア・フィリピン・フィジー・エクアドルの4つのグループに分かれ、その国の住人としてロールプレイする。それぞれの国の場所を世界地図から確認する。グループで、その町の現状と問題点を把握する。グループにはそれぞれ違う立場の5人の役がある。各自自分の役の台本（英語）を日本語に直し、内容を理解する。（台本はALTにも協力してもらい、実際の国の状況と合った情報をインターネットで収集した。また、イメージし易いようそれぞれの国の写真をグループに配る。）
- ②その状況で、日本からのボランティア青年に、自分がしてもらいたいことを1つ考え英語で表現する。
- ③グループ毎にそれぞれの現状と問題点とどうしてほしいのか、英語でロールプレイする。台本のYou, yourの表現を、発表時は I, my に直して発表する。
- ④聞き手は、自分が隊員でその町にいるとしたら、どの人の意見に一番賛同できるか考える。また、自分が実際その町で最初にやりたいことを考える。理由も考える。

\*「地球のステージ1」を鑑賞したすぐ後の授業であったので、生徒もボランティアに対して気持ちが熱く、台本の内容理解や自分の主張を考えると、とても自主的に活発に活動していた。しかし、具体的なレベルで考えるには、情報が少ないため、アイデアを出すのに苦労していた。実際のロールプレイは英語でよく発表でき、他のグ

ループの発表もよく聞いていたが、隊員として何ができるかをじっくり考えるには、時間が足りなかった。もう少し深いレベルで考えることができるよう工夫したい。



### 「風に立つライオン」から考える

歌の背景を説明する。「風に立つライオン」(さだまさし) 英語版の歌詞と日本語の歌詞(ブランクあり)を読み、( )に入る言葉を考える。さだまさしの歌を聞いて( )に入る言葉を確認する。歌に関係するようなケニアの写真を見ながら英語バージョンを聴く。歌詞の内容から、自分の夢に向かって生きた青年の生き方をどう思うか、自分はどうような生き方をしたいか、を考える。

#### 生徒の感想

・歌を聴きながらの授業は気分がよいです。  
・なんかすごい歌だった。  
・自分も壮大な自然を見れば考え方も変わるかなと思った。  
・なんか感動した。  
・後悔のないように生きたい。  
・高く澄んだ空のような人生を生きたい。  
・強くそして大切なものが守れるような生き方がしたい。

#### 成果と課題

ケニア出発前に事前学習をして、ケニアを身近に感じさせ、ケニアの報告を楽しみにするようにしたが、竹とんぼを作って持っていったことで、生徒はその報告を楽しみにしており、効果があったと感じた。事前にその国の様子を予想し、チェ

ックしてきて欲しいことをまとめておくと、いろいろな視点でその国を見るヒントにもなったし、生徒にとってもいきなりケニアのことを聞くより、ケニアをより身近に考えることが出来たように思う。報告では、竹とんぼをもらってはしゃぐケニアの子どもたちの様子を見て喜んでいたり、また子どもの母親たちが手作りで作ったSCCのストラップを手にして喜んでいたりする生徒の姿を見ると、日本の高校生とケニアをつなぐ掛け橋が少しでもできたのではないかと思う。地域のボランティア会の皆様へは、写真とお土産を渡しただけで、報告する時間を持っていないので、今後の課題として、地域への広がりという面でも考えていきたい。

英語の教科書の内容と絡め、単元毎に国際理解教育を取り入れ、3年生全クラス対象の年間を通したカリキュラムにした。他の英語教員の協力もあり、ねらいに沿って計画・実施できたが、「ケニアの子どもたち」のテーマは、自分の英語を担当しているクラスだけでしか行わなかった。そのクラスでは担任の協力もありHR活動でも行ったが、学校全体に広げることは難しかった。ただし「地球のステージ1」講演は大好評で、学校全体に世界やボランティアについて考えるきっかけとなり、本校で計画し、講演していただき本当に良かったと思った。

英語の授業に絡めることは、原文を英語で読むことの楽しさや、英語の授業で様々な活動が味わえるが、英語では、考えをまとめることが難しく、深いレベルでの話し合いができないという問題があった。また、ケニアについてだけを扱った授業は、時間の都合上あまりできなかったが、ケニアで学んだことや感じたことは、ところどころ英語の授業のスパイスとして生かすことができたしこれからもできると感じている。

成果としては、年間を通した英語の授業で、国際理解について考えるきっかけができたこと、竹とんぼやストラップという手作りのものを通して生徒がケニアを身近に感じる事ができたこと、課題としては、授業時間の確保、深いレベルで考えさせる内容の工夫、学校全体へ広げる、という3点があげられる。

研修において、事前研修や事後研修なども、この成果につながったと思う。丁寧に計画・実施してくださったJICA職員の皆様、またさまざまな面で協力してくださった研修参加者の皆様に感謝いたします。